

## Q&A ダンボール箱利用の堆肥化 こんなときは？



### 温度が上がらないのですが...

- 野菜くずが多いとカロリーが低いため温度は上がりづらくなります。温度を上げるには、米ぬかや廃食用油、天ぷらカス等カロリーの高い物を入れると良いでしょう。
- 肉や魚などのたんぱく質・脂質系が多いと、温度は上がるがにおいも発生します。特に、魚のアラやいかゴロ等を入れると、温度は上がるがアンモニア臭が強くなります。
- 温度とにおいの関係は、温度が高くなるほどにおいが強くなる傾向にあります。

### においは何とかならないの？

- 肉や魚などのたんぱく質・脂質系には窒素分や硫黄分が含まれており、分解過程でアンモニア臭や硫黄臭がします。基材（ピートモスともみ殻くん炭）や吸着力の高い炭、炭素分の多い枯草・オガクズなどを加え、かき混ぜると、においは和らぎます。

※コンポスターなど他の好気性発酵にも共通する点があります（密閉式は嫌気性発酵です）。

### 虫が発生したのですが...

- 小バエや粉ダニ等が発生しやすいので、生ごみは溜めておかずすぐ入れるようにしましょう。
- 小バエや粉ダニ等は、25～35℃、水分70%程で最も発生しやすくなります。水分を50～60%に抑え、温度はできるだけ高く上げ、よくかき混ぜましょう。
- 防虫には、通気性のある布でぴったり覆うほか、木酢液、石灰（生ごみ1kgに10g程度）の散布が効果があるといわれています。

### その他

- 虫の発生もあるので、アレルギーの人は、室内での堆肥化は避けたほうが良いでしょう。
- 生ごみは、小さくするほど表面積が増えるため分解が早くなります。
- 酸素の好きな微生物が活動し分解してくれます。よくかき混ぜて空気を入れてあげましょう。

## 生ごみの減量・リサイクルに取り組んでいる団体

それぞれの方法についての相談を受けてくれます。

- 循環(くるくる)ネットワーク北海道** — ピートモスともみがらくん炭を基材とするダンボール箱を利用した堆肥化方法を考案し、普及に取り組んでいる団体です。

〒060-0808 札幌市北8条西3丁目 札幌エルプラザ2F Tel011-709-5751

- 北海道EM普及協会** — EMボカシを使う密閉式容器を利用した堆肥化方法の普及に取り組んでいる団体です。

〒004-0005 札幌市厚別区厚別東5条3丁目24 Tel011-898-9898